

丸山湿原群保全の会会報

(第 193 号)

発行日：2023 年 (R5) 8 月 16 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788

090 - 1895 - 8061 (今住)

E-mail:maruyamashitugengun@gmail.com**戦争は最大の環境破壊と差別を生み出します！**

暑い！というよりいつもの異常。いやいつも以上の異常？

異常が普通の時代に突入しているに違いありません。以前にも宮沢賢治の「雨ニモマケズ」の一部を引用して「ヒデリノトキハナミダヲナガシ」と書いたことがありましたが、まさしくその状態も。涙を田畑にやりたいぐらいです。そして次のフレーズに「サムサノナツハオロオロアルキ」がありますが、これは「やませ」。多分もう起こらないのではないかとされています。実は海水温が「やませ」の主な原因だったという説です。海水温の上昇は東北地方にまで及び、親潮が南下しない？北海道でのブリ豊漁などでも明白なこと。

また、天気予報が台風などの大雨情報であられかえっていますが、旱魃状態の関西（一般には思われていないかも？）にとっては別の国の話のようです。日本列島が南北に長いとはいえ、これほど極端な違いはいったい何なのでしょう。暑さについては共通しているようですが…新潟の南魚沼でも田んぼがカラカラ？ピンポイントの気候？と言っていると新たに台風（7号）がやってくるようです。雨が降るか注目です。（発行時には結果が出ていると思います）

人は自然（生活）環境を知恵？でコントロールすることを身に付け、異常に暑くとも、異常に水がなくとも、エアコンや灌漑設備でほぼ困ることなく生活できるようになりました。火星で暮らせるようになるのも近いとか。実は今の異常は大した問題ではないのかもしれない。

「宇宙戦艦ヤマト」の発進も必要なしです。ただ、選ばれし者のみ生き残るのかも…

(今住 8 月 13 日作成)

保育園自然探検 ★7月 18 日 (火) 25 日 (火) 26 (水) elf (小悪魔?) たちがやってきた！

昨年に引き続き「はなみずき保育園本園・分園」「やまぼうし保育園分園」がやってきました。自然体験大好き保育園です。この時期は「ハッチョウトンボ (ハ丁蜻蛉)」をメインとしていますが、5 歳児にとっては「珍しい」とか「絶滅危惧」という言葉は関係ありません。「動くもの」「大きい物」「おいしい物」「楽しい事」に夢中。濁った眼の大人とは違い、すべてが「キラキラ」としているのでしょうか。多くのことが「初めて」の経験。ワクワクするはずですが、濁っていない目を



サワガニです

した大人もきっといいますが、珍しいとか貴重とかにはめっぽう弱い。なぜでしょうね。「キラキラ」を感じている大人は「変人」なんて呼ばれてしまいますが…

さて、最初に登場は「はなみずき分園」。いきなり元気に迫ってきました。竹筒ポストにとうちゃーく。「宝塚から来た人は右側の一番上に石を入れてね」と言うと、なんと届かない！「じゃーおじさんが抱き上げて…」ほぼ 18 回。(全員ではなかったか？ちと話を大きく…) その後は、川に直行。サワガニ (沢蟹)

カニなんて怖くない！



http://www.hit-osato.com/maruyamashitugengun-hozennokai
保全の会 HP・blog

さん、ご難が続きます。しかし園児にとっては「初めて」。かなりビビってました…。捕まえ方・持ち方を丁寧に指南。(ちと話は大きく…)。松ぼっくりと一緒に袋に入れている子も。暑いのでその後リリース。あわや「ゆでガニ」になりかけていました。

続いての登場は「やまぼうし分園」。ちとおとなしい？またまた竹筒ポストにとうちゃーく。「届



定番 天使の羽根 (ウラジロ)

かない…」と思ったら竹筒ポストに「玉入れ」ならぬ「石入れ」が始まりました。「危ない」と言う前に入ります。「面白い！」と思ってしまうのはよくないか？竹筒を外して入れていただきました。このチームは植物に興味のある子が多かった。「やまぼうし保育園」だから「ヤマボウシ (山法師) の実」を採ったり、定番のウラジロ (裏白)「天使の羽根」など。

この回で最も驚いたのは、湿原手前の川でカニを捕まえた影響からか第3湿原での「あっ！カニが！」の誰かのひと言。(大人だったような…)「第3湿原にカニ？」

と思って覗いて

みると木道の際を動くものが…「おー！ヒメタイコウチ (姫太鼓打) や！」濁った眼には「キラキラ」と輝く超レア昆虫。三田市の皿池湿原にはウジャウジャと出てくる場所がありますが、普通は激レア。私たちも数年に1度お目にかかるかかからないかの虫。「氷期の生き残り」ともいわれ飛べない、泳げない奇妙なタイコウチです。東海地方から岡山辺りにしかいないそう。もの好きな大人だけが喜んでいました。サギソウはまだ蕾。あと2日ぐらいかかるかな？帰りには川で長靴完全水没のクールダウン。気持ちはヒートアップしていました。



カニ？ 久々のヒメタイコウチ

翌日は「はなみずき本園」。人数も一番多い。しかしガイドは最も少ない2人。ま〜保育園のスタッフさんは何度も来ておられる方。しかもインカム(トランシーバー)を仕込んでおられます。気楽に遊ばせていただきました。竹筒ポストは満杯でほぼスルー。川ではカニ捕り。ここでひと言「長靴に水が入ることは絶対にやめましょう」と。「今回は厳しいですね」とスタッフさん。



1日違いでサギソウ開花

おじさん(お爺さんか?)ガイドは学んでいました。行きに濡れてしまうと後々気持ちが悪く、「ぐずる」子も出てくると。帰りにはしゃぎましょと。(言わないで…心に秘めて。昨日学習済み。)この連続シリーズ共通の「カンサイスノキ (関西酔の木)」や「タムシバ (田虫葉) 試食会」を経て湿原へ。するとサギソウ (鷺草) が開花しているではありませんか！反応薄い…ひ弱やし。さて、ハッチョウトンボは？いない！連日の暑さのせいで姿を隠しているようです。ぼちぼち終盤だしね。必死に探す大人。オオシオカラトンボ (大塩辛蜻蛉) に心を震わせる純真な眼の園児。「きゅうけーい！」アクエリがうまい！(ポカリじゃないよ…)その間も大人は必死にハッチョウトンボを…何とか見つけることができました。さて帰り道、川です。「はまってもいいよ〜」の発言にこわごわ冷たい水に入り…はじけたら一気に爆発。もはや「川水浴場」。なんと飛び込み？(飛び降り?) あおっているのは…おお！スタッフさんではありませんか。やるね。

おじさん(お爺さんか?)ガイドは学んでいました。行きに濡れてしまうと後々気持ちが悪く、「ぐずる」子も出てくると。帰りにはしゃぎましょと。(言わないで…心に秘めて。昨日学習済み。)この連続シリーズ共通の「カンサイスノキ (関西酔の木)」や「タムシバ (田虫葉) 試食会」を経て湿原へ。するとサギソウ (鷺草) が開花しているではありませんか！反応薄い…ひ弱やし。さて、ハッチョウトンボは？いない！連日の暑さのせいで姿を隠しているようです。ぼちぼち終盤だしね。必死に探す大人。オオシオカラトンボ (大塩辛蜻蛉) に心を震わせる純真な眼の園児。「きゅうけーい！」アクエリがうまい！(ポカリじゃないよ…)その間も大人は必死にハッチョウトンボを…何とか見つけることができました。さて帰り道、川です。「はまってもいいよ〜」の発言にこわごわ冷たい水に入り…はじけたら一気に爆発。もはや「川水浴場」。なんと飛び込み？(飛び降り?) あおっているのは…おお！スタッフさんではありませんか。やるね。



ジャンプ!

飛びます飛びま〜す やるね!



飛び降りて、腰まで水に浸かってます

「川ガキ」が絶滅危惧種と言われる昨今、ぜひ発展的に遊んでほしい。危険はつきものですが…何事もよ〜く知ってからの遊びを。暑いが楽しかった！また来てね〜。

定期活動 ★7月23日(日) ササ刈り(サギソウ開花数調査ルート確保) 8名で作業

梅雨明け前から雨が降らず高温続き。8月20日予定のサギソウ開花数調査の準備の準備。ルートセンサスの歩道確保です。年々暑くなるのに加えて高齢化が進み、高温多湿の中での作業人数



暑さが見える？緑の草原(湿原)

は減少傾向。結構つらい。が、少しずつササは矮小化して刈り取りは楽になっています。(シカの食害という噂もありますが…) 乾いた観察路だけの作業なので何とかなっています。ここ数年、サギソウの咲き始めをこの作業日に記録するのですが…ない???遅れているのか、何か問題が起こっているのでしょうか、少々心配にもなります。「網引湿原」(加西市)からも「サギソウ咲かない」と同じような情報が。気候が影響しているみたいです。

その後「保育園コーナー」で紹介したように開花が確認できました。今年のサギソウはどうなるのでしょうか？激滅の可能性もありかと思っています。ま〜これだけはどうしようもないこと。「環境の激変」は起こってないので気楽に考えましょう。

この日は駐車場で集合したときから面白いことが。ひらひらと美しいチョウが。ウラギンシジミ(裏銀小灰蝶)です。会員の「汁(水分)」を吸いに来たのか靴に止ま



ミッキーマウスの葉

実

アリマウマノスズクサの実

ったり。周りをふわふわ飛んでいました。特に珍しいわけではありませんが、なかなか出会えないチョウです。表はなんと赤!

湿原へ向かう途中では、アリマウマノスズクサ(有馬馬の鈴草)の実を確認。私は実を初め

て見ました。先を何かにかじられているようです。毒を持っているのでそうそうかじられないとは思いますが…ジャコウアゲハ(麝香揚羽)の幼虫か?食べるの普通「葉っぱ」やね。しかーし!後日衝撃の事実を目撃します。(知っている人には普通らしい)ミッキーマウスの葉っぱを同じ

場所で探していると…無い!1枚も。あのミッキーがない。ふと見ると、なんとジャコウアゲハの幼虫がアリマウマノスズクサ(つる植物)の

軸まで食べつくしているではありませんか。まるでササを食べているようにも見えます。更に近くには蛹も。見事にササに「わが身」を縫い付け(縛

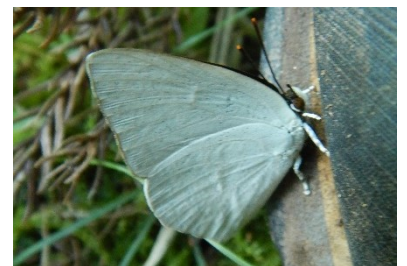
られているという表現もあるようですが…)固定している。実は抜け殻だったのですが、抜けて

すぐ?という感じの美しさでした。まるで「お菊」のように。近くに黒地に赤の線を持ったジャコウアゲハがひらひらと飛んでいました。この子か?

「お菊さん」。播州皿屋敷の「お菊」にジャコウアゲハの蛹ががたとえられるとか。別名「お菊虫」というそうです。ご興味のある方はお調べください。播州=姫路のお話で

す。「1枚2枚3枚…」怖!

おっと話が完全に飛んでいました。とにかく暑い中お疲れ様でした。次回はライン張りとなります。暑さはどうなっているか?



靴にとまったウラギンシジミ



ジャコウアゲハ幼虫(3匹)

大食漢 葉っぱを食べ尽くす



紐で縛り付けている

縛られた「お菊さん」

極秘情報

★大阪万博フィールドパビリオン参加か？エコツアー？

★宝塚北高校「放送部」何かやってくれるみたい？

？？？ばかりの超極秘情報ですが、上記2つのミッションが何やら動き出しているようです。万博は「北摂里山地域循環共生圏(hokuCES)」（環境省がらみ？）の活動としてだそうです。なんかまだよくわかりませんが、「兵庫県環境部長さんご一行」（4名）も視察に。しかしまだ話が見えん。逐次ご報告いたします。

もう一つは、高校生の「衝撃メール」から話が始まり、トントン拍子で進行中。今度のサギソウ開花数調査にも来ていただけたら。「放送部」です。何が飛び出すやらまだ未知数。

定期活動

★8月12日（土） 基礎調査 センサスライン設置 10名で活動

目的	市内	市外	場所	時間	気温【水温】	電気伝導（EC）	PH
丸山湿原	74	65	入口	10：10	30.8℃		
登山・ハイキング	52	32	第3湿原	10：33	【24.5】	208.0 μ S/cm	6.2
散歩	27	11	視点場	10：45	33.9℃	水なし測定不能	-
			第1湿原	10：47	【23.6℃】	63.5 μ S/cm	6.0
			第2湿原	11：00	【26.3℃】	59.1 μ S/cm	6.1

来場者数計 261 人

（竹筒ポスト集計）

雨が全く降らず、何もかも干上がっています。この日は基礎調査とセンサスラインの設置。サギソウどれくらい咲いている？

まずデータですが、**水がなく測定不能の場所も**。第3湿原は流れ出しなし。水溜まりでの計測。当然 EC は高く200越え。PH は低く6.2 まで。有機酸の影響でしょうか？有機酸ってこの頃肥料であるけどよく分からない。土壤改良に役立つそうだから「貧栄養」に貢献しないのは明白？また分かる人教えてください。有機酸が関係してると

は限りませんが…

何をやる気にもならない暑さ。「帰るか？」のひと言が心を揺さぶります。しか～し！サギソウ開花数調査が1週間後に迫っています。「やらねば…」後期高齢者の先輩たちは黙々と作業をしていきます。素晴らしい。わが身を奮い立たせ「紐を張る位置が違う！」と文句ばかり言っていたような…誰も聞いていませんが、ごめんなさい。なんだかんだ言いながらブロックライン（青）とルートライン（黄）が見事？に張られていきました。全部で9ブロック。基本



小ぶりながら、開花 サギソウ

20mの距離なんです、なぜか毎年広くなったり狭くなったりします。マーキングしてるのに見つからない。ひょっとしてシカかアライグマが動かしているのか？そんな訳はない…終わった後は毎年反省してるんですが。全体数を確認すると安心してしまいます。今年こそはきちりと！頑張ろっと。そういえばシカの来訪が激減。暑さと雨不足のせいかも。どこかで「じっと」しているのでしょうか。秋に急に増えそうですが。

準備万端？ですが、「どうなる？サギソウ開花数調査」。



カラッカラの湿原 水路にも水なし



ブロックラインは青 場所ずれてる？

次回活動日 8月20日（日）サギソウ開花数調査 27日（日） 9月9日（土）16日（土）ガイド研修ツアー 24日（日）